

令和8年9月 観光まちづくり特別委員会資料

2つの世界遺産を生かした観光まちづくりについて

目次

- | | | |
|---|-------------------------|---------|
| 1 | 長崎市における観光まちづくりに係る計画関連 | ・・・ P 2 |
| 2 | 長崎市の世界遺産観光について | ・・・ P 5 |
| 3 | 2つの世界遺産の概要・これまでの取組 | ・・・ P14 |
| 4 | 世界遺産を生かした観光まちづくりの成果・課題 | ・・・ P32 |
| 5 | 世界遺産を生かした観光まちづくりの取組の方向性 | ・・・ P34 |

令和8年9月
文化観光部

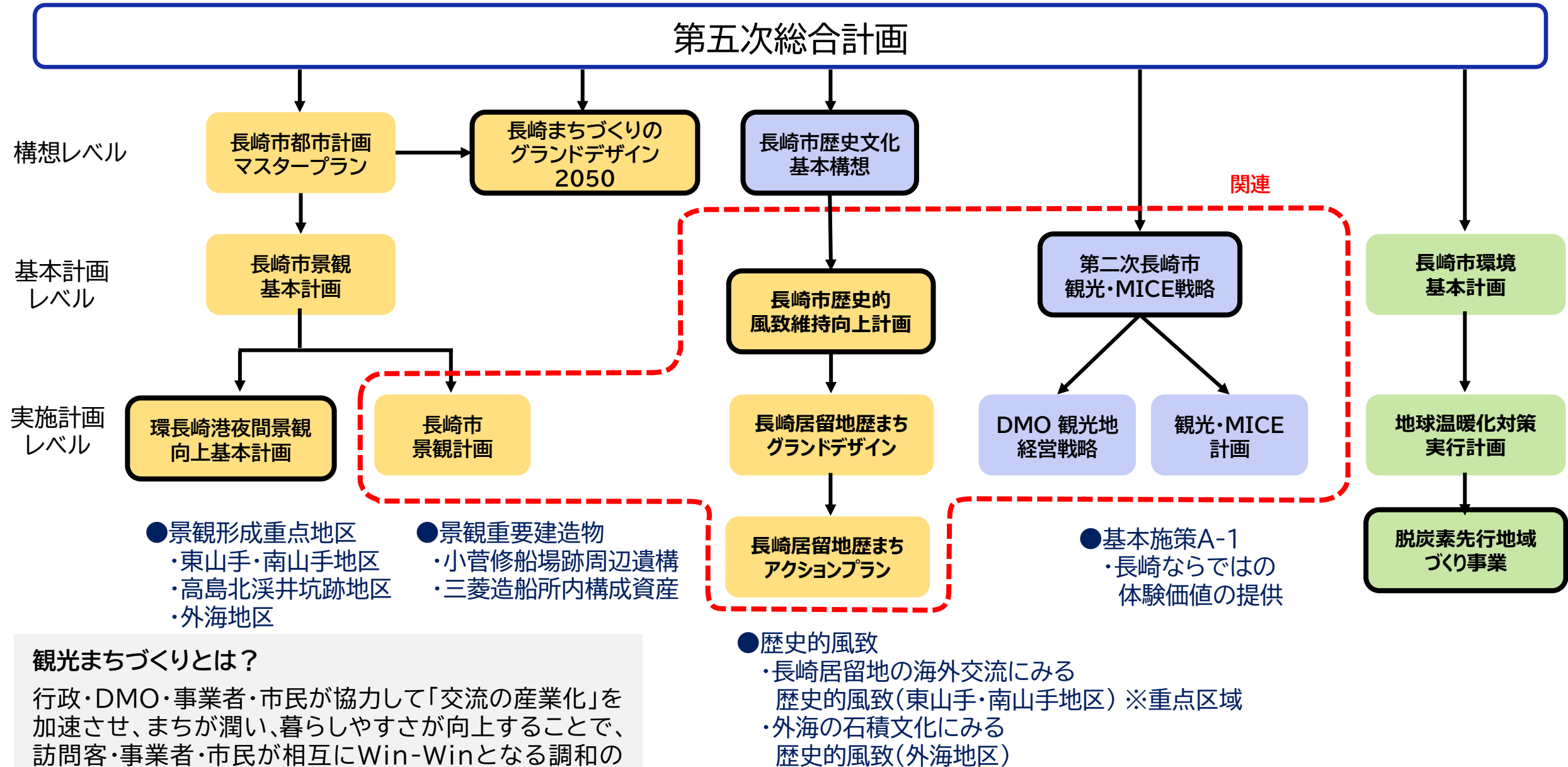
1 長崎市における観光まちづくりに係る計画関連

1 長崎市における観光まちづくりに係る計画関連

まちづくり部
所管

文化観光部所管

環境部所管



観光まちづくりとは？

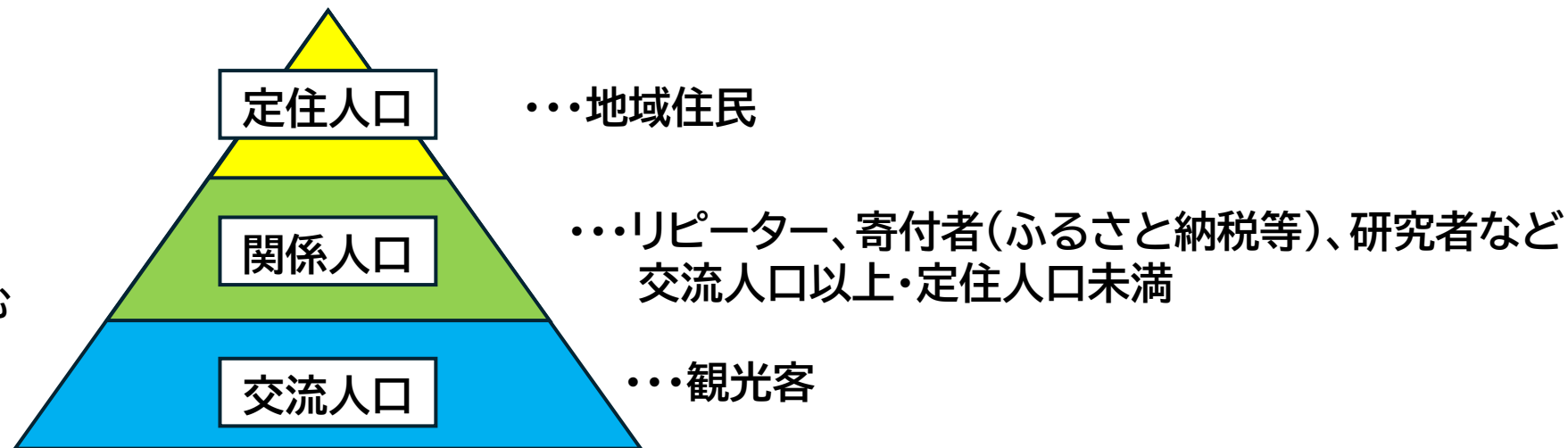
行政・DMO・事業者・市民が協力して「交流の産業化」を加速させ、まちが潤い、暮らしやすさが向上することで、訪問客・事業者・市民が相互にWin-Winとなる調和のとれたまちをつくること。(長崎市第五次総合計画より)

1 長崎市における観光まちづくりに係る計画関連

●キーワード

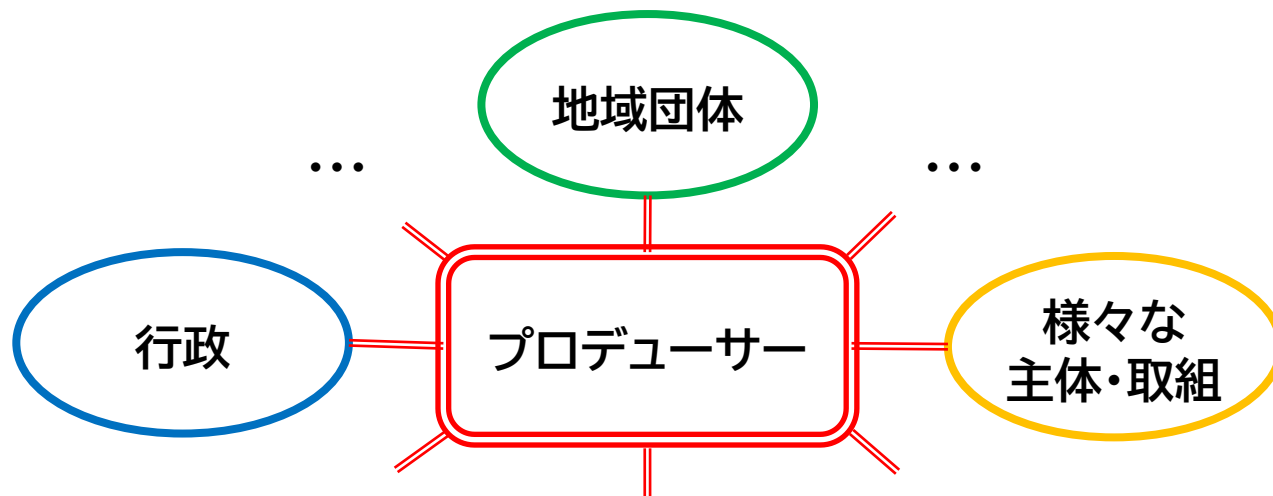
① 関係人口の増加

定住人口が減少する中で、
様々な関わり方で協力して
くれる個人・団体を呼び込む
ことが重要



② プロデューサーとなるDMOや民間団体との連携

専門的知識を有するプロデューサーの力を借りながら様々な主体・取組と連携することで効果的・効率的に事業を展開



2 長崎市の世界遺産観光について

2 長崎市の世界遺産観光について

(1) 市内構成資産の所在地

北 部

【潜伏キリシタン】

- ・外海の出津集落
- ・外海の大野集落

南 部

【産業革命遺産】

- ・高島炭坑(北溪井坑跡)
- ・端島炭坑



中心部

【産業革命遺産】

- ・旧グラバー住宅
- ・小菅修船場跡
- ・三菱造船所 旧木型場・占勝閣・第3船渠・ジャイアント・かんばりバー・クレーン

【潜伏キリシタン】

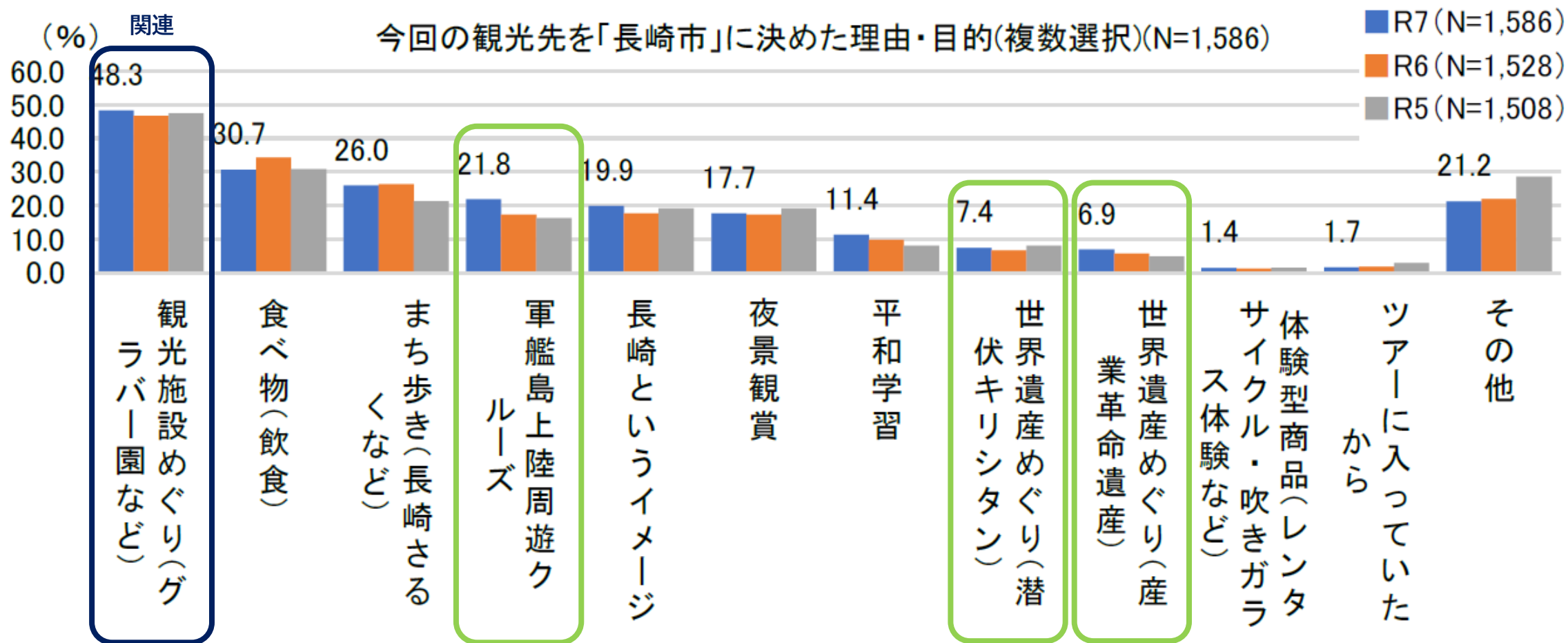
- ・大浦天主堂

2 長崎市の世界遺産観光について

(2) 世界遺産を目的とした観光

ア 日本人観光客

世界遺産めぐり(軍艦島上陸周遊クルーズを含む)を目的として長崎市に観光に来る割合は、36.1%



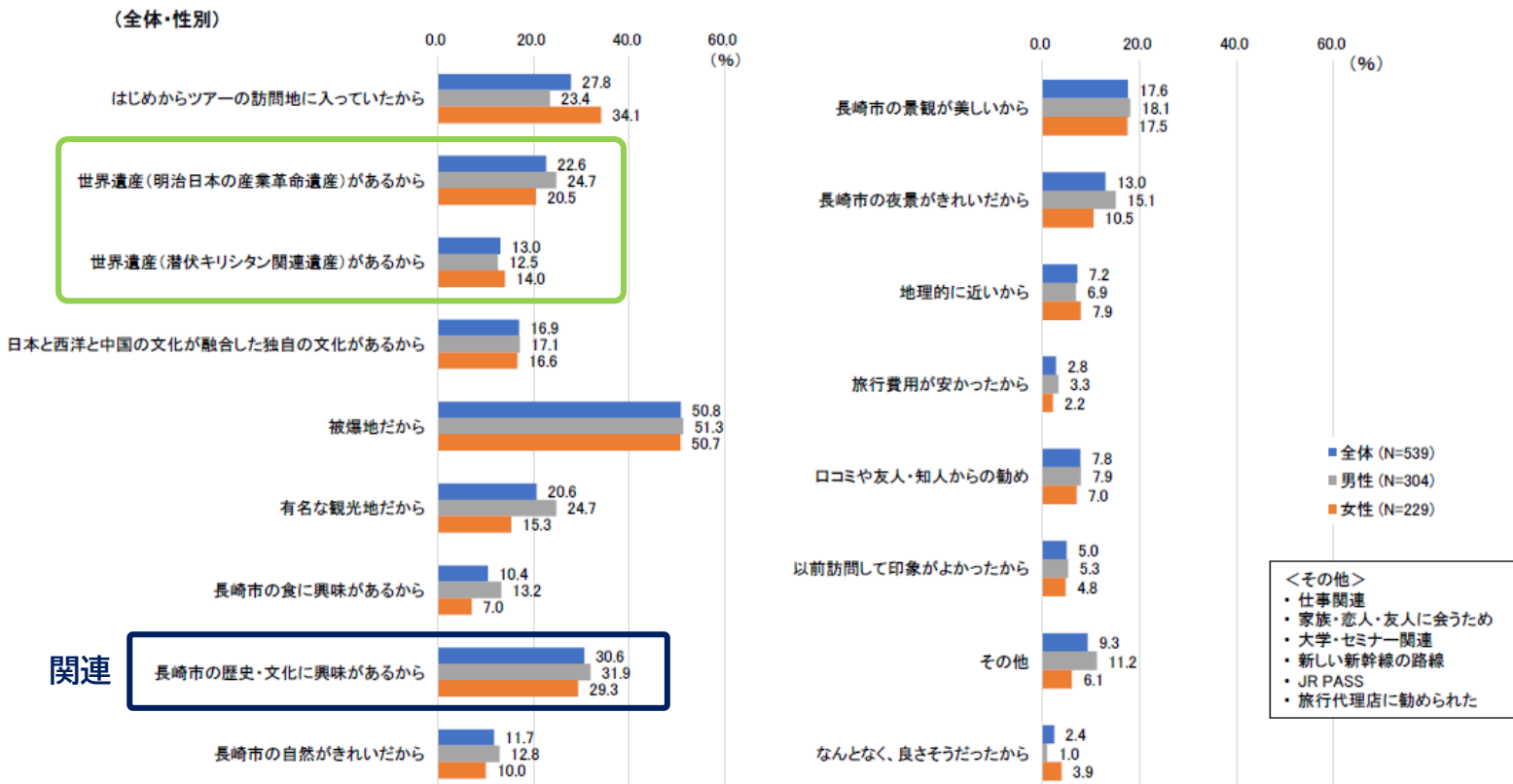
2 長崎市の世界遺産観光について

イ 外国人観光客

世界遺産を目的として長崎市を観光地にした割合は、35.6%

長崎市を選んだ理由を教えてください(複数回答可)

項目	割合
世界遺産(明治日本の産業革命遺産)があるから	22.6%
世界遺産(潜伏キリシタン関連遺産)があるから	13.0%
(関連) 長崎市の歴史・文化に興味があるから	30.6%

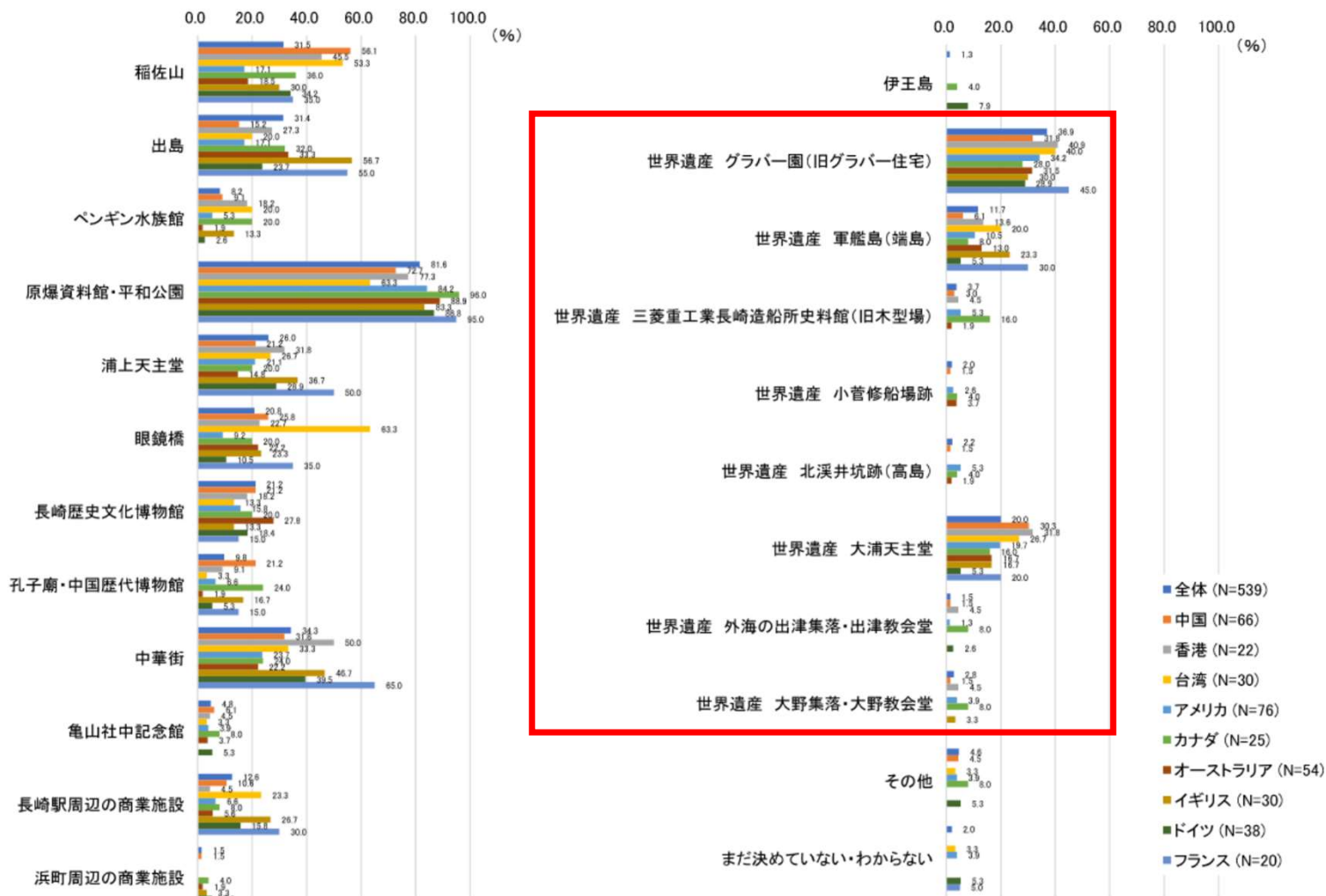


出典: 令和7年度長崎市訪日外国人観光動向調査

2 長崎市の世界遺産観光について

(3) 訪日外国人の来訪状況

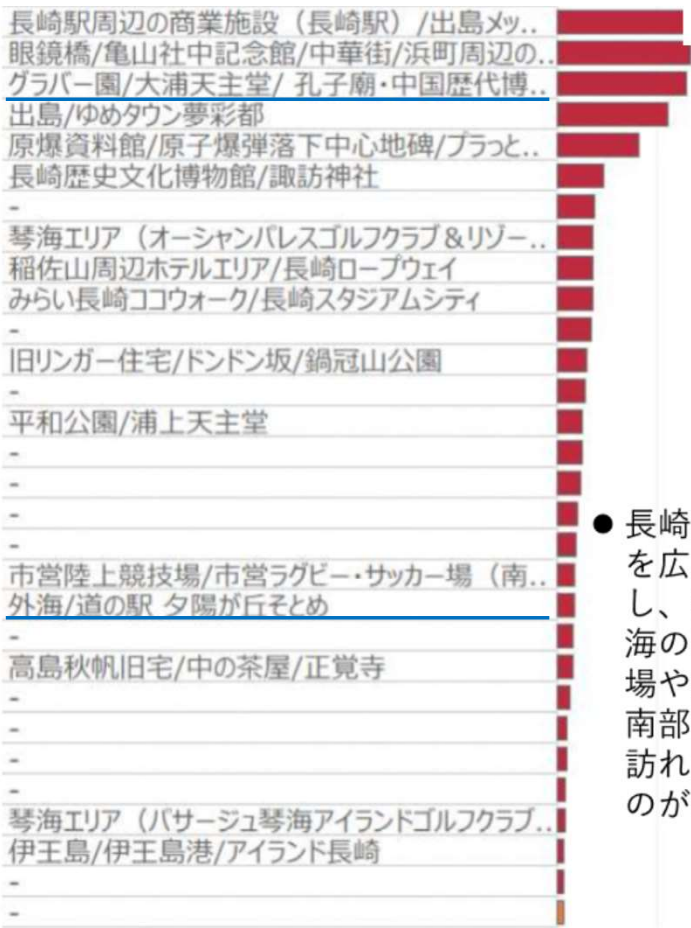
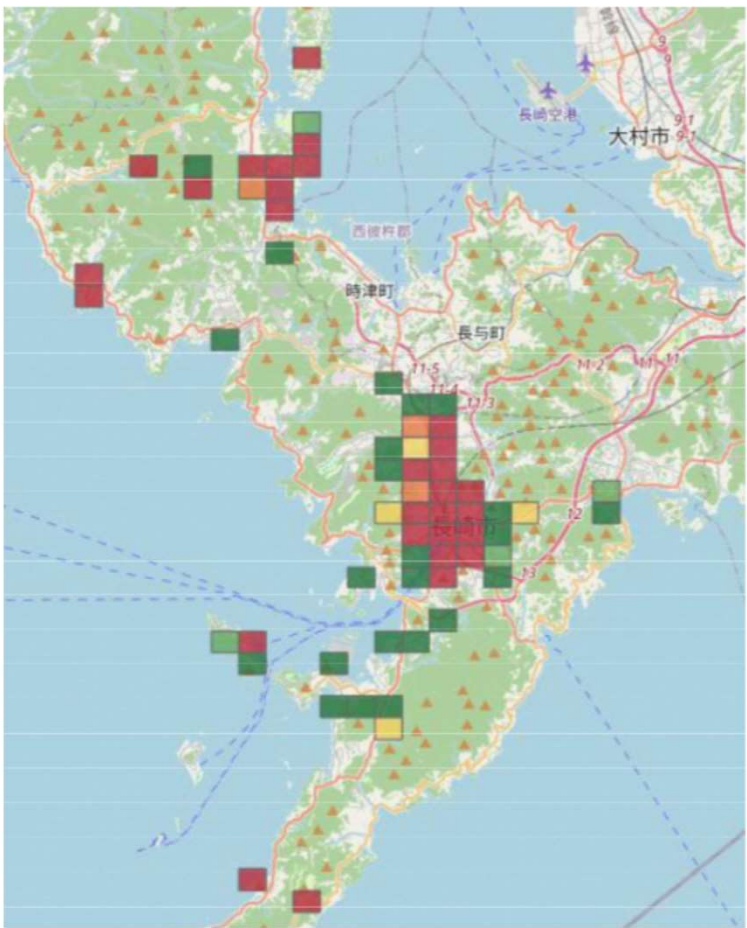
令和7年長崎市訪日外国人観光動向調査(設問:今回、長崎市のどこへ行きましたか。または行く予定ですか。)



2 長崎市の世界遺産観光について

(3) 訪日外国人の来訪状況

令和7年訪日長崎市外国人動向分析(携帯電話の位置情報により、訪問先を分析)



● 長崎市全域を広く訪問し、特に琴海のゴルフ場や外海、南部へ多く訪れているのが特徴

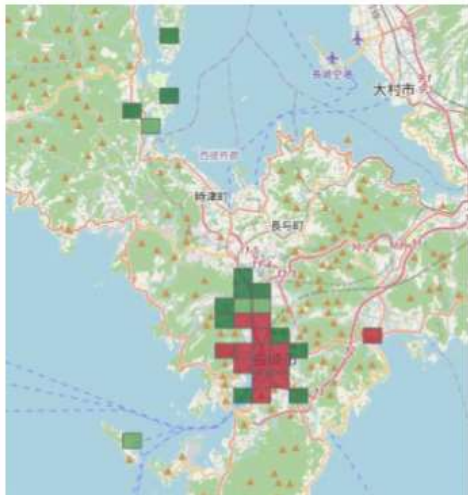
2 長崎市の世界遺産観光について

(3) 訪日外国人の来訪状況

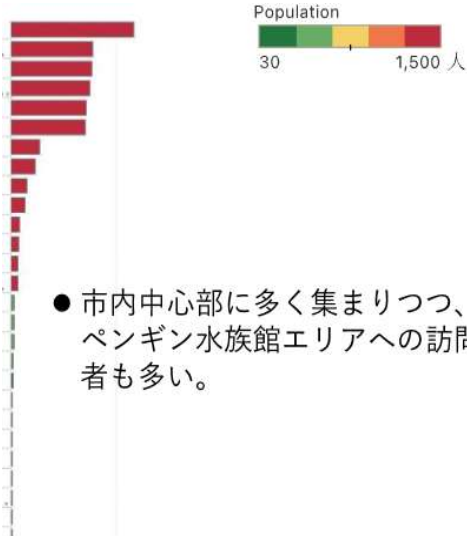
令和7年訪日長崎市外国人動向分析(携帯電話の位置情報により、訪問先を分析)



台湾



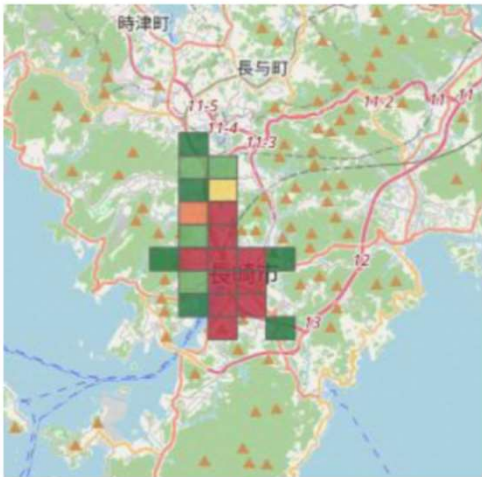
長崎駅周辺の商業施設(長崎駅)/出島メッセ/グラバー園/大浦天主堂/孔子廟・中国歴代博..
出島/ゆめタウン夢彩都
眼鏡橋/亀山社中記念館/中華街/浜町周辺の..
稲佐山周辺ホテルエリア/長崎ローウェイ
原爆資料館/原子爆弾落下中心地碑/プラット..
旧リンガー住宅/ドンゴン坂/鍋冠山公園
長崎歴史文化博物館/諏訪神社
みらい長崎コワーキング/長崎スタジアムシティ
稲佐山/稲佐山山頂展望台
ペンギン水族館/日見公園
-
高島秋帆旧宅/中の茶屋/正覚寺
市営陸上競技場/市営ラグビー・サッカー場(南..
伊王島/伊王島港/アイランド長崎
-
平和公園/浦上天主堂
-
-
-
-
-



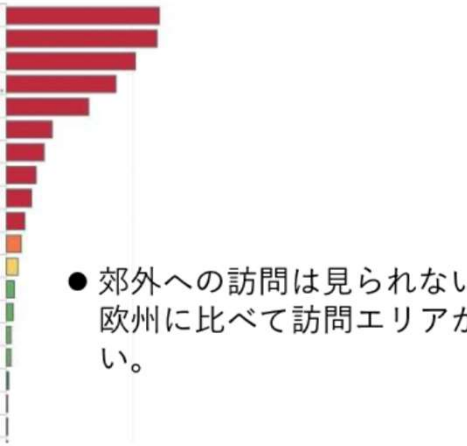
● 市内中心部に多く集まりつつ、ペンギン水族館エリアへの訪問者も多い。



アメリカ



原爆資料館/原子爆弾落下中心地碑/プラット..
長崎駅周辺の商業施設(長崎駅)/出島メッセ/グラバー園/大浦天主堂/孔子廟・中国歴代博..
出島/ゆめタウン夢彩都
眼鏡橋/亀山社中記念館/中華街/浜町周辺の..
稲佐山周辺ホテルエリア/長崎ローウェイ
みらい長崎コワーキング/長崎スタジアムシティ
長崎歴史文化博物館/諏訪神社
旧リンガー住宅/ドンゴン坂/鍋冠山公園
高島秋帆旧宅/中の茶屋/正覚寺
市営陸上競技場/市営ラグビー・サッカー場(南..
平和公園/浦上天主堂
-
-
-
-
-
-
稲佐山/稲佐山山頂展望台

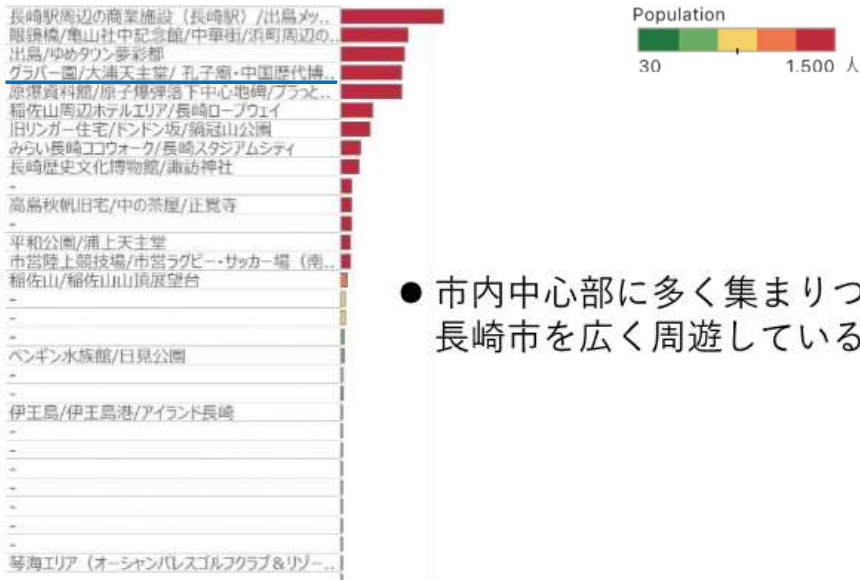
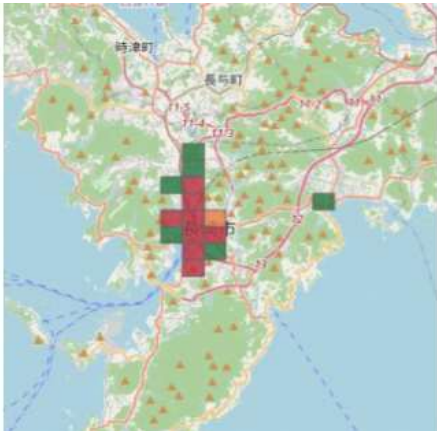
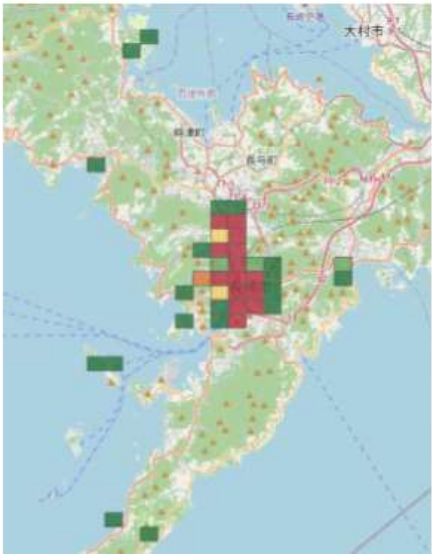


● 郊外への訪問は見られないが、欧州に比べて訪問エリアが広い。

2 長崎市の世界遺産観光について

(3) 訪日外国人の来訪状況

令和7年訪日長崎市外国人動向分析(携帯電話の位置情報により、訪問先を分析)



● 市内中心部に多く集まりつつ、長崎市を広く周遊している



● 周遊は市内中心部に限られる。一部ペンギン水族館エリアへの訪問も見られる。

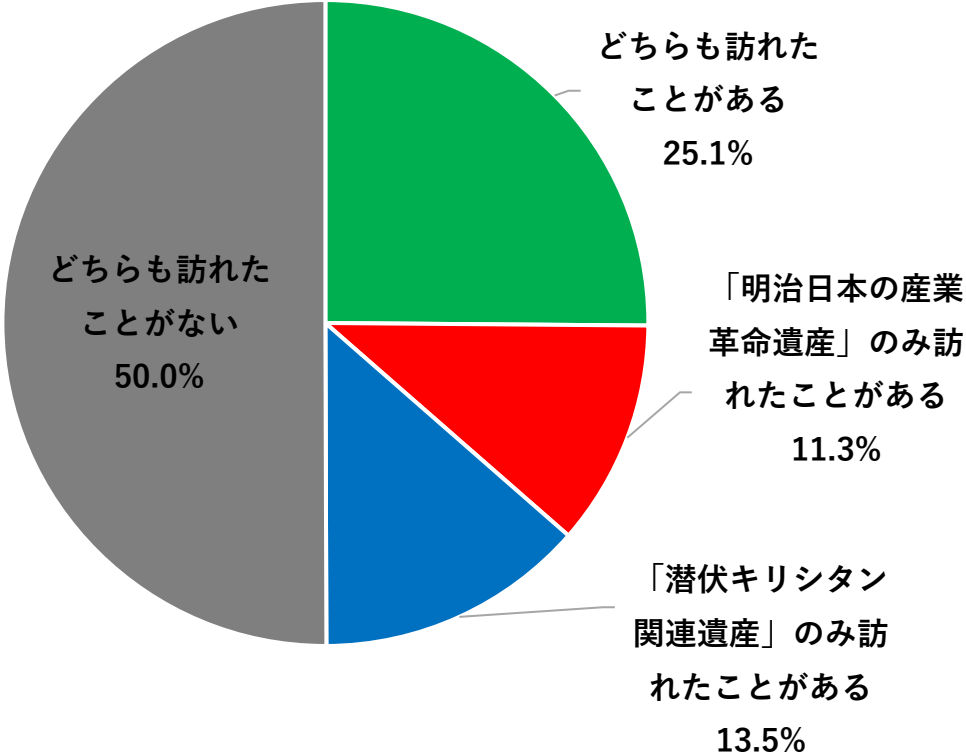
2 長崎市の世界遺産観光について

(4) 市民の来訪状況

項 目	回答率
どちらも訪れたことがある	25.1%
「明治日本の産業革命遺産」のみ訪れたことがある	11.3%
「潜伏キリシタン関連遺産」のみ訪れたことがある	13.5%
どちらも訪れたことがない	50.0%

出典：令和7年度市民意識調査

市民の来訪状況



- どちらも訪れたことがある
- 「明治日本の産業革命遺産」のみ訪れたことがある
- 「潜伏キリシタン関連遺産」のみ訪れたことがある
- どちらも訪れたことがない

3 2つの世界遺産の概要・これまでの取組み

3-1 「明治日本の産業革命遺産」

3-2 「潜伏キリシタン関連遺産」

3-1 2つの世界遺産の概要・これまでの取組 –「明治日本の産業革命遺産」

(1) 概要

ア 世界遺産としての価値【8県11市:23構成資産によるシリアルノミネーション】

日本は、非西洋地域で1850年代から1910年のわずか半世紀で工業立国の土台をつくり、植民地になることなく自力で、のちに基幹産業となる「製鉄・製鋼」「造船」「石炭産業」の重工業分野で急速な産業化を成し遂げた。

	試行錯誤期 1850s (蒸気機関以前)	西洋技術の導入期 (蒸気機関)	産業基盤の確立期 (電力の導入) 1910
製鉄・製鋼	○集成館(鹿児島) ○葦山反射炉(葦山) ○橋野高炉跡及び関連施設(釜石) ○萩反射炉(萩)		○官営八幡製鉄所 (北九州・中間)
造船	○恵美須ヶ鼻造船所跡(萩) ○大板山たたら製鉄遺跡(萩) ○萩城下町(萩) ○松下村塾(萩) ○集成館(鹿児島)	●小菅修船場跡 ●旧グラバー住宅	●長崎造船所 第三船渠 ● // ジャイアント・カンチバークレーン ● // 旧木型場 ● // 占勝閣
石炭産業		●高島炭坑 ○三角西港(宇城)	●端島炭坑(長崎) ○三池港(大牟田・荒尾)

長崎市内の構成資産:8資産

3-1 2つの世界遺産の概要・これまでの取組 –「明治日本の産業革命遺産」

イ 構成資産を有する自治体(8県11市:23構成資産)

岩手県 釜石市

静岡県 伊豆の国市

山口県 萩市

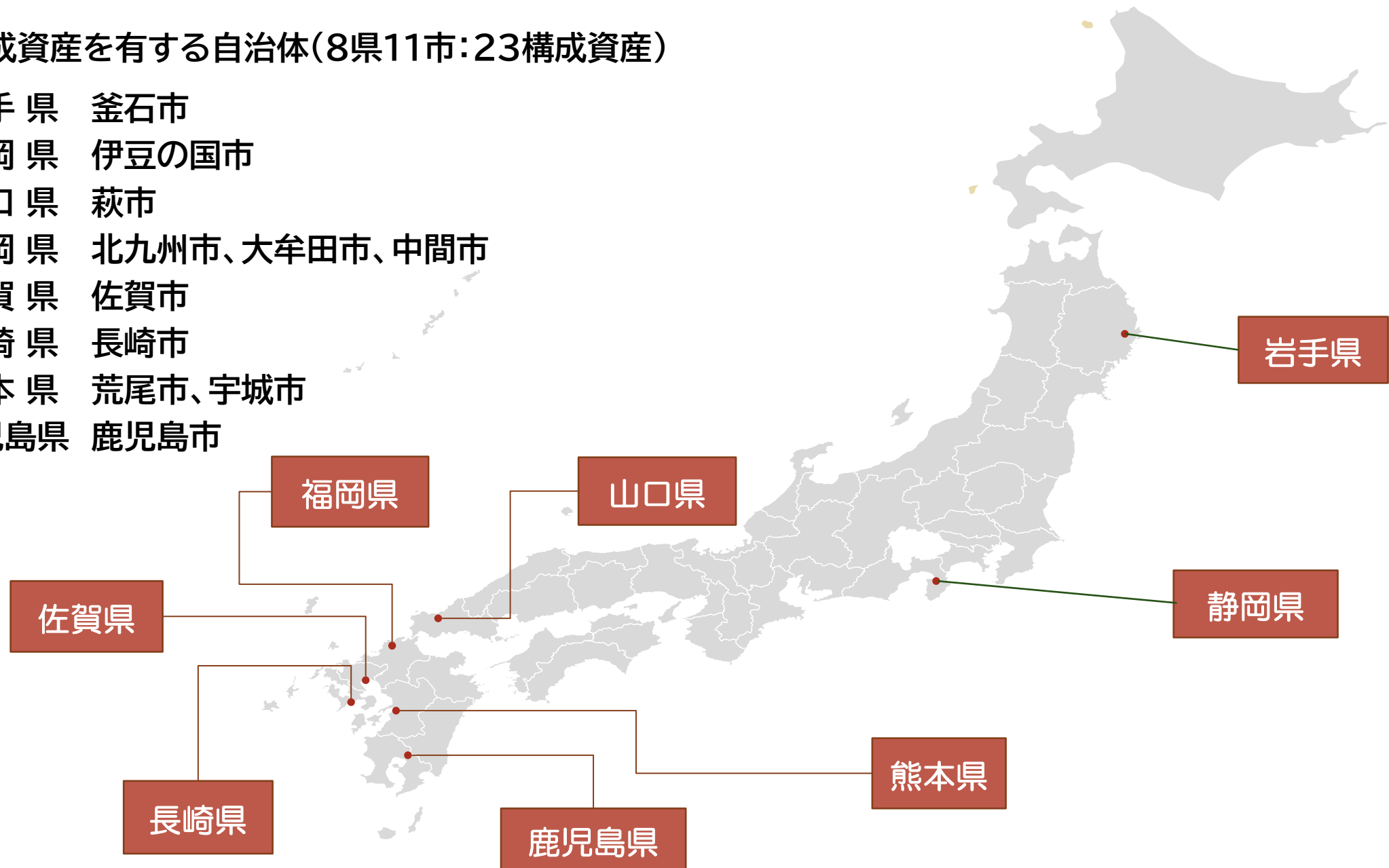
福岡県 北九州市、大牟田市、中間市

佐賀県 佐賀市

長崎県 長崎市

熊本県 荒尾市、宇城市

鹿児島県 鹿児島市



3-1 2つの世界遺産の概要・これまでの取組 –「明治日本の産業革命遺産」

ウ 長崎市内の構成資産(8資産)・観光拠点 位置図 (構成資産 観光拠点)

三菱長崎造船所
旧木型場(長崎造船所史料館:休館)
占勝閣 第3船渠
ジャイアント・カンチレバークレーン



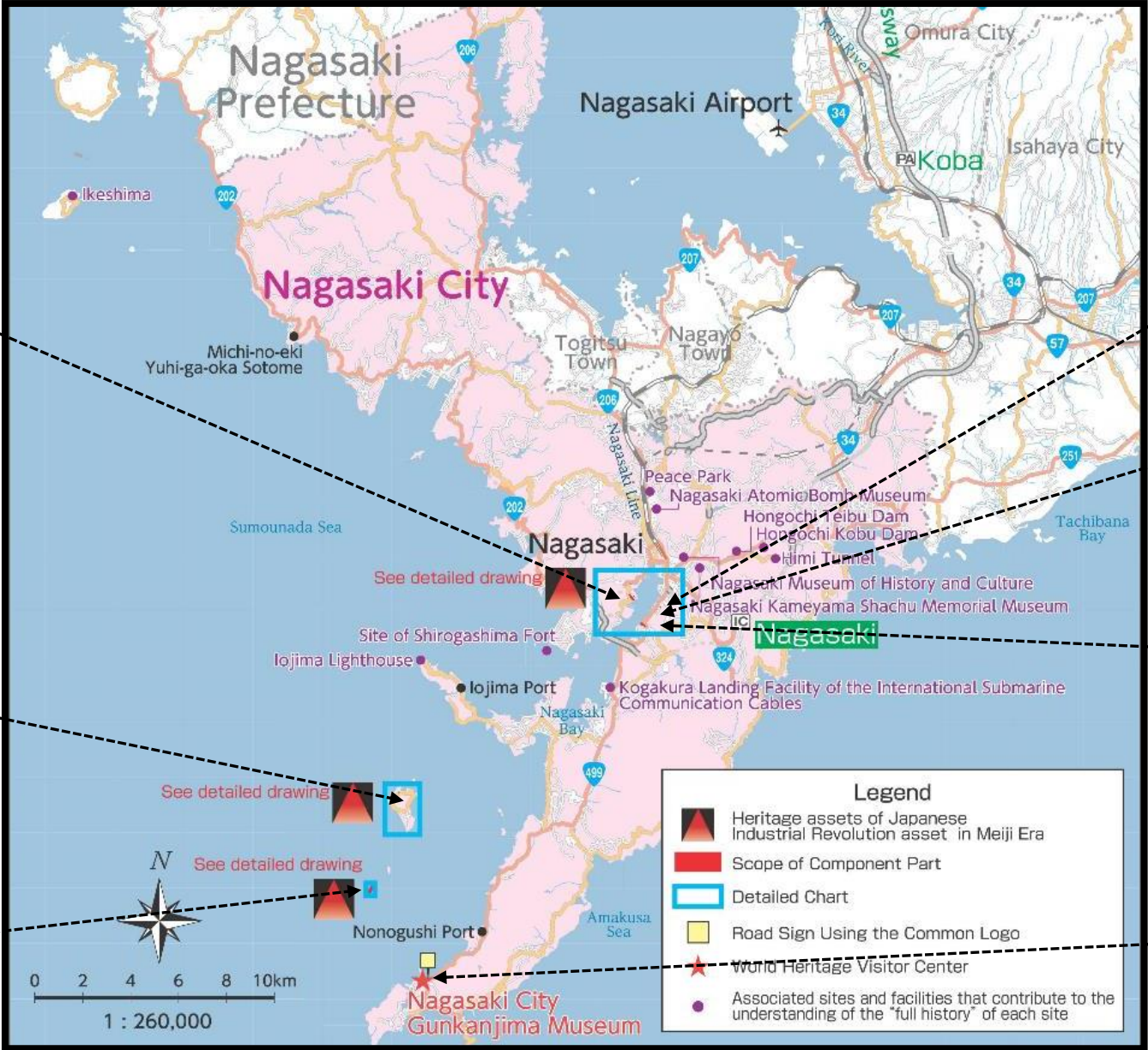
高島石炭資料館



高島炭坑
(北溪井坑跡)



端島炭坑 端島見学施設



グラバー園
旧グラバー住宅

世界遺産ビジターセンター
(旧三菱第2ドックハウス内)



軍艦島デジタル
ミュージアム(民営)

小菅修船場跡



軍艦島資料館

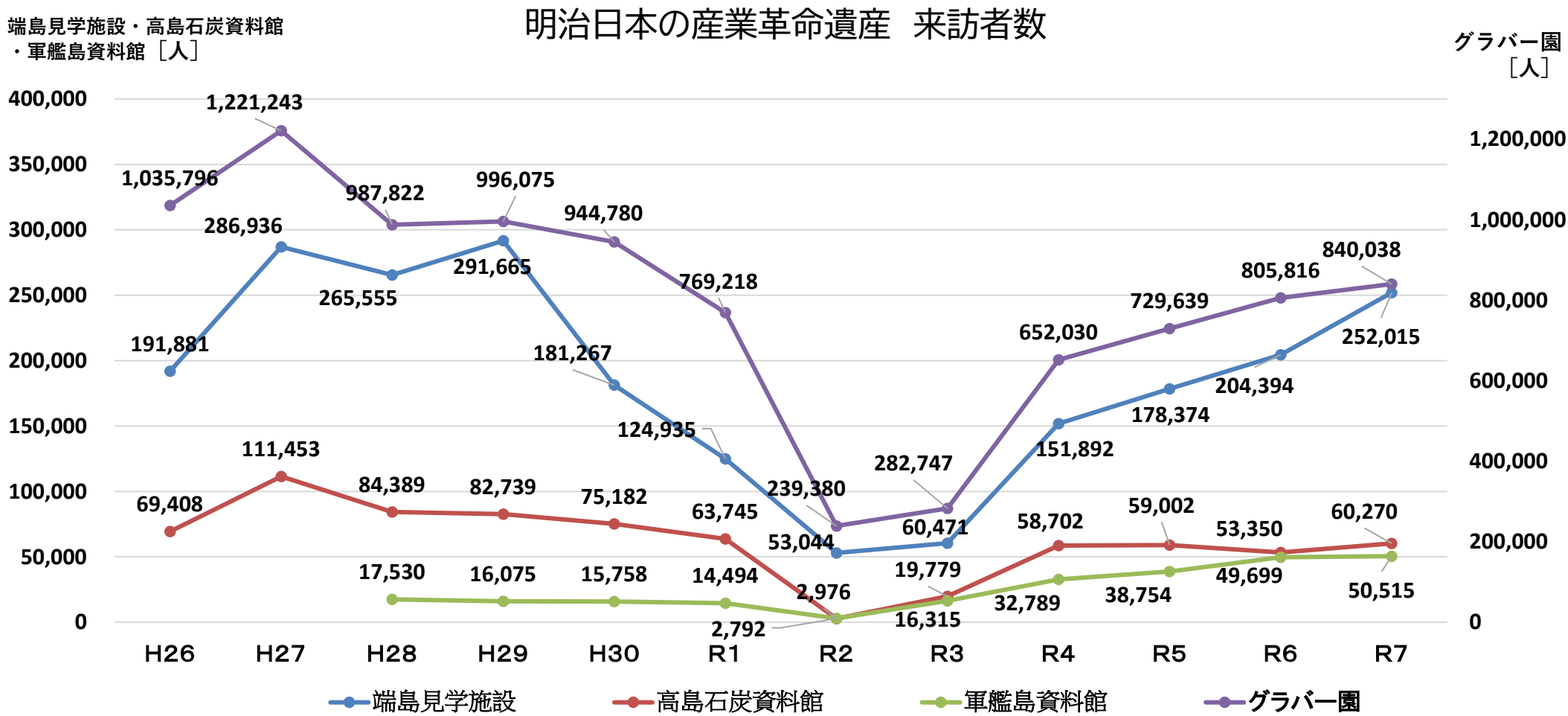


3-1 2つの世界遺産の概要・これまでの取組 –「明治日本の産業革命遺産」

エ 長崎市内の構成資産(8資産)・観光拠点 来訪者数

グラバー園は、ピーク(H27年度)時と比較して、令和7年度は68.8%

高島石炭資料館は、ピーク(H27年度)時と比較して、令和7年度は54.1%



3-1 2つの世界遺産の概要・これまでの取組 –「明治日本の産業革命遺産」

(2) これまでの取組状況(主なもの)

ア 資源磨き・保全整備

(ア) 端島炭坑

- ・平成30～令和29年度の計画に基づき護岸遺構・生産施設遺構を整備中

護岸遺構

事業費内訳	
国費 (1/3)	市費 (2/3)

※国費は社会資本整備総合交付金
(海岸環境整備事業)
市費は過疎債(充当率100%)

生産施設遺構

事業費内訳		
国費 (50%)	県費 (20～6%)	市費 (30～44%)

※国費は文化庁補助金(史跡)
市費は過疎債(充当率100%)

- ・令和6年度:操業当時の様子を再現した360度VRコンテンツ等制作

事業費内訳		
国費 (50%)	県費 (20%)	市費 (30%)

※国費は文化庁補助金(史跡)
市費は過疎債(充当率100%)



(ア) 端島護岸補強整備工事



(ア) 端島炭坑360度VRコンテンツ

3-1 2つの世界遺産の概要・これまでの取組 –「明治日本の産業革命遺産」

(イ) 旧グラバー住宅

・平成30～令和3年度:保存修理・耐震補強整備事業

事業費内訳		
国費 (50%)	県費 (20%)	市費 (30%)

※国費は文化庁補助金（重要文化財）
市費は合併特例債（充当率95%）・一財（5%）

(イ) 改修後の グラバー住宅



(ウ) 小菅修船場跡

・平成29～令和6年度:曳き揚げ機小屋保存整備事業
（三菱重工業(株)長崎造船所実施、長崎市補助）

事業費内訳			
国費 (50%)	県費 (16.7%)	市費 (12.5%)	所有者負担 (20.8%)

※国費は文化庁補助金（史跡）
市費は一財

(ウ) 改修後の 小菅修船場跡



(I) 高島北溪井坑跡

・令和6年度:操業当時の様子を再現したCGアニメーション制作

事業費内訳		
国費 (50%)	県費 (20%)	市費 (30%)

※国費は文化庁補助金（史跡）
市費は過疎債（充当率100%）

(I) 高島北溪井坑跡 CGアニメーション



3-1 2つの世界遺産の概要・これまでの取組 –「明治日本の産業革命遺産」

イ 受入態勢整備

事業費内訳
市費(100%)

※市費は一財

(ア) 地元住民ガイド配置

小菅修船場跡において、世界遺産認定時から地元小菅町自治会の方々を中心に、ボランティアでのガイドを実施。曳揚げ機小屋内部も含め案内している。

〈実施日〉 土・日・祝日(年末年始を除く)

〈時 間〉 9時～16時

〈その他〉 ガイドには謝礼金を支出



3-1 2つの世界遺産の概要・これまでの取組 –「明治日本の産業革命遺産」

(イ) 長崎エリア世界遺産ビジターセンターの整備

設置場所 グラバー園内 旧三菱第2ドックハウス
(令和6年3月展示更新)

●特徴

- ・東京・産業遺産情報センターと連携した世界遺産価値の理解につながる解説パネルの設置
(8県11市にまたがる23の構成資産、3つの産業の関連性、市内の構成資産の位置づけ等)
- ・大画面5連マルチモニター映像による全国23の構成資産について解説
- ・小学生等の関心を高めるハンズオン展示
(ジャイアント・カンチレバークレーンの操作体験)
- ・長崎港・対岸の三菱長崎造船所を望む2階バルコニー
- ・操業当時の端島の様子を理解できるVRコンテンツの体験
- ・立入禁止エリアを含む今の端島を自由に散策できるメタバースコンテンツの体験



旧三菱第2ドックハウス外観

事業費内訳	
国費 (50%)	市費 (50%)

※国費は地方創生推進交付金
市費は一般補助施設等整備事業債
(充当率90%)・一財(10%)



解説パネル



5連マルチモニター



ハンズオン展示



バルコニーから望む長崎港

3-1 2つの世界遺産の概要・これまでの取組 –「明治日本の産業革命遺産」

ウ 世界遺産登録10周年事業(令和7年度)

事業費内訳
市費(100%)

※市費は一財

【負担割合:県・市1/2ずつの負担とし、
市負担分は11市の均等割＝長崎市負担 1/22】

(ア)「明治日本の産業革命遺産」世界遺産協議会※での取組

※「明治日本の産業革命遺産」世界遺産協議会
構成資産を有する2県11市の自治体で構成する団体。
負担金により事業を実施している。

a 登録10周年記念シンポジウム

開催日:令和7年7月16日

会場:東京国際フォーラムホールB5

聴講者:838名(インターネット同時配信含む)

※令和7年9月10日 オンデマンド配信を開始

b 登録10周年特設ウェブサイト

運用・管理期間:令和6年10月31日～令和8年3月31日

アクセス数:139,182アクセス

c カードラリー

実施期間:令和7年7月1日～9月30日

全38種類・38,209枚のカードを配布

PRサイトアクセス数:20,835回



(c)カードラリー



(d)ミステリー小説を活用したSNSでの情報発信

d ミステリー小説を活用したSNSでの情報発信

SNS(インスタグラム)において影響力のあるインフルエンサー2名に動画制作・投稿を依頼

8月28日～10月6日の間に12本の投稿を実施(週2本ずつ)。総リーチ数:1,729,165(～令和7年11月30日まで)

3-1 2つの世界遺産の概要・これまでの取組 –「明治日本の産業革命遺産」

(イ) 長崎市での取組

a～d

事業費内訳
市費(100%)

※市費は一財

a 軍艦島・高島親子クルーズ

- ・日時:令和8年3月20日(金・祝)
- ・会場:軍艦島・高島
- ・内容:端島炭坑及び高島炭坑の価値や魅力を小学生とその家族に体感していただくことを目的に軍艦島・高島親子クルーズを実施。定員100名に対して1,035名の応募があり、抽選で参加者を決定。

b 世界遺産クリーンウォーク

- ・日時:令和7年5月18日(日)10:00～12:30
- ・会場:グラバー園から小菅修船場跡
- ・内容:世界遺産の構成資産である「旧グラバー住宅」付近から「小菅修船場跡」まで、ゴミを拾いながら歩き、ゴール地点の小菅修船場跡の清掃も実施。
参加者には小菅修船場跡のガイドによる解説を行うほか、ノベルティ(記念品)をプレゼント。

c フォトコンテスト写真展

- ・日時:令和7年7月1日(火)～14日(月)
- ・会場:長崎市役所 19階 ギャラリーウォール
- ・内容:令和4・5年度に実施した「明治日本の産業革命遺産フォトコンテスト」の入賞作品を展示。

e

事業費内訳		
国補助 (50%)	県補助 (20%)	市費 (30%)

※市費は過疎債
(充当率100%)

d 懸垂幕の掲示

- ・日時:令和7年7月1日(火)～令和8年1月14日(水)
- ・会場:長崎市役所 1階
- ・内容:4.5m×2.0mの懸垂幕を市役所1階に掲示。

e 端島炭坑(軍艦島)2本のVRコンテンツを制作

- ・オンラインゲーム「フォートナイト」において、現在の端島をメタバース化したステージを制作。令和7年1月公開開始(同年3月アップデート)
- ・アプリ「ストリートミュージアム」において、操業当時の端島を再現した360度VR・CGアニメーションを制作。
令和7年3月公開開始。



(a)軍艦島・高島親子クルーズ



(b)世界遺産クリーンウォーク

3-2 2つの世界遺産の概要・これまでの取組 –「潜伏キリシタン関連遺産」

(1) 概要

ア 世界遺産としての価値【2県6市2町:12構成資産によるシリアルノミネーション】

17世紀から19世紀の2世紀以上にわたるキリスト教禁教政策の下で密かに信仰を伝えた潜伏キリシタンにより育まれた独特な宗教的伝統を物語る他に例を見ない証拠である。



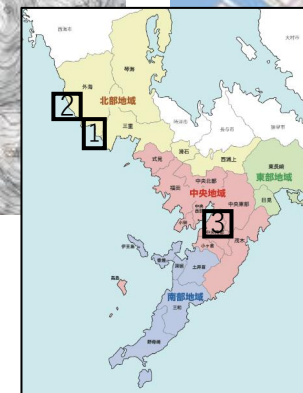
3-2 2つの世界遺産の概要・これまでの取組 –「潜伏キリシタン関連遺産」

イ 構成資産を有する自治体(2県6市2町:12資産)



3-2 2つの世界遺産の概要・これまでの取組 –「潜伏キリシタン関連遺産」

ウ 長崎市内の構成資産(3資産)・観光拠点 位置図



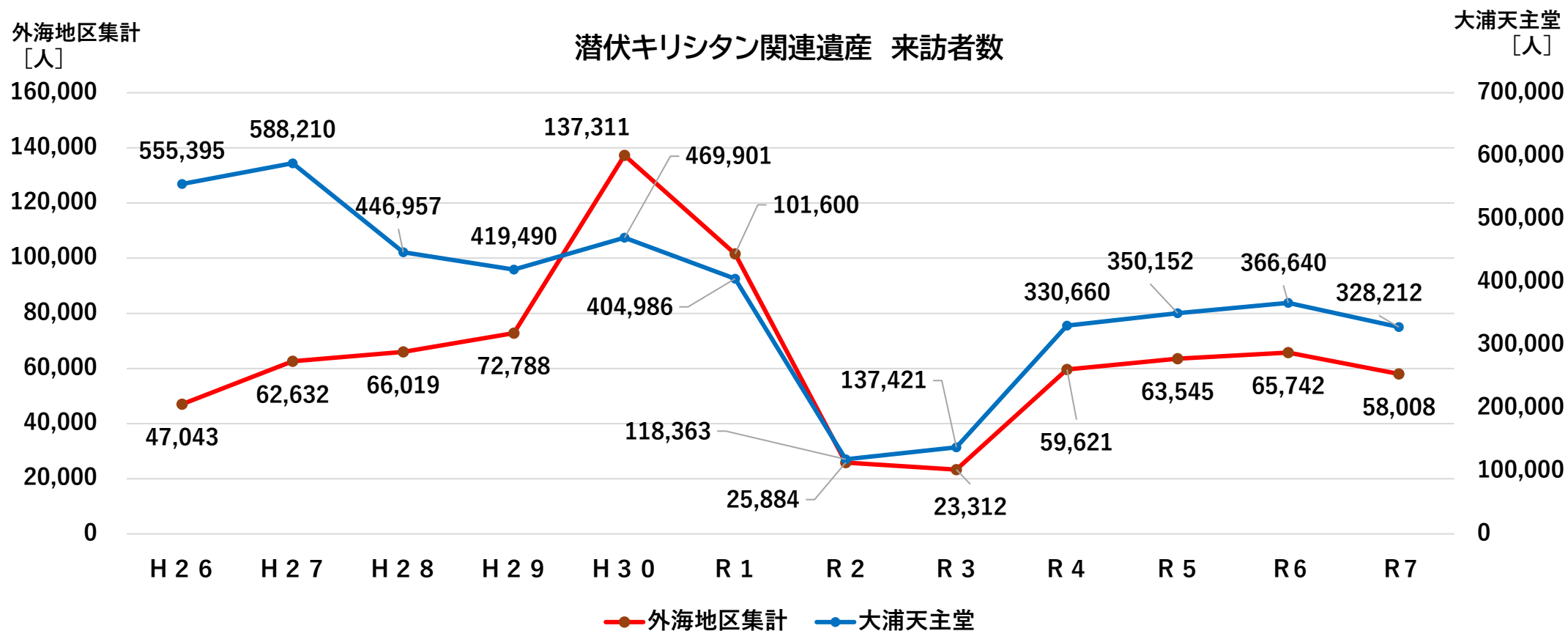
構成資産 緩衝地帯

3-2 2つの世界遺産の概要・これまでの取組 –「潜伏キリシタン関連遺産」

エ 長崎市内の構成資産(3資産)・観光拠点 来訪者数

大浦天主堂は、ピーク(H27年度)時と比較して、令和7年度は55.8%

外海地区の資産は、ピーク(H30年度)時と比較して、令和7年度は42.2%



※外海地区の資産は、出津教会堂、外海歴史民俗資料館、ド・ロ神父祈念館、旧出津救助院、大野教会堂の来訪者数の合計

3-2 2つの世界遺産の概要・これまでの取組 –「潜伏キリシタン関連遺産」

(2) これまでの取組状況(主なもの)

ア 資源磨き・保全整備

(ア) 大浦天主堂

・平成29年度 美装化事業

事業費内訳			
国費 (50%)	県費 (25%)	市費 (12.5%)	所有者負担 (12.5%)

※国費は文化庁補助金（史跡）
市費は一財

・令和7年度 文化財多言語解説整備事業

事業費内訳	
国費 (73%)	自己負担 (27%)

※国費は文化庁補助金（多言語解説整備事業）

(イ) 旧出津救助院

・令和6年度 多言語化整備事業

事業費内訳	
国費 (78%)	自己負担 (22%)

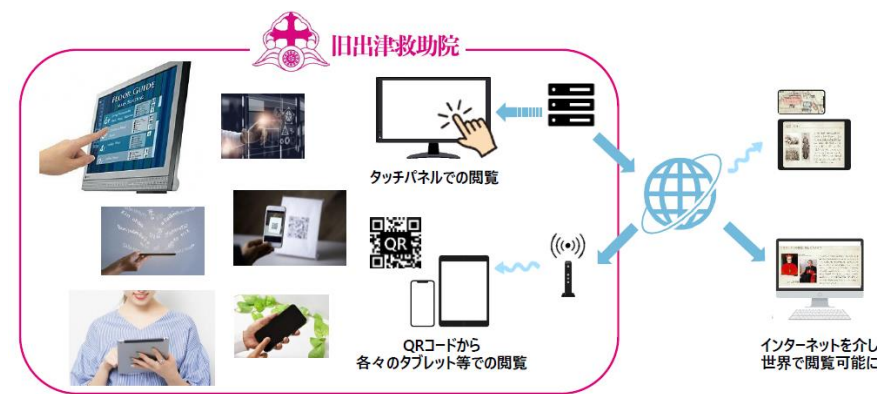
※国費は文化庁補助金（多言語解説整備事業）



(ア)外壁等整備後の大浦天主堂



(ア)多言語化整備事業



(イ)多言語化整備事業

3-2 2つの世界遺産の概要・これまでの取組 –「潜伏キリシタン関連遺産」

イ 受入態勢整備

(ア) 教会守配置

事業費内訳
市費(100%)

※市費は過疎債（充当率100%）

地域信者の方々に担い手となってもらい、出津教会堂及び大野教会堂付近に一定時間常駐し、訪問者のマナーの伝達や迷惑行為の監視、訪問者の質問への対応等を実施。

- 〈実施団体〉 NPO法人世界遺産長崎チャーチトラスト
- 〈実施日〉 359日(年末年始を除く)
- 〈時 間〉 9時～17時
- 〈人 員〉 各教会にガイド1名
- 〈その他〉 ガイドには謝礼金を支出

【来訪者数実績(直近5年度)】

・出津教会堂

- R3: 8,489人
- R4: 19,896人
- R5: 22,400人
- R6: 24,105人
- R7: 26,635人



・大野教会堂

- R3: 4,311人
- R4: 8,453人
- R5: 7,999人
- R6: 8,313人
- R7: 9,606人



3-2 2つの世界遺産の概要・これまでの取組 –「潜伏キリシタン関連遺産」

(イ) 世界遺産ガイダンスコーナー整備(外海歴史民俗資料館)

- ・平成28年度 整備
- ・平成30年度 推薦書の見直しに伴う展示改修

事業費内訳

市費(100%)

※市費は過疎債
(充当率100%)



(イ)世界遺産ガイダンス
コーナー全景

【展示資料】



「イナッショさま」

外海地区出津の
キリシタンが伝承
した像。



「マリア観音像」

三重地区檜山のかくれキリ
シタンの帳方の家に伝承さ
れ、帳方の一族及び近隣の
信者がサンタ・マリア像と
して信仰していた観音坐像。



「コンタツ(ロザリオ) 十字架付き」

外海地区出津のキリシタン伝承の
信仰具(数珠)

(ウ) 出津教会堂トイレ・駐車場整備

- ・令和4年度:トイレ整備
- ・令和5・6年度:駐車場舗装整備

事業費内訳

市費(100%)

※市費は過疎債
(充当率100%)



(ウ)トイレ・駐車場



(ウ)トイレ

4 世界遺産を生かした観光まちづくりの成果・課題

4 世界遺産を生かした観光まちづくりの成果・課題

(1) 成果

- ① 構成資産等の保全整備は、計画に基づき進捗が図られている。
- ② 世界遺産登録に併せて行ってきた受入態勢の整備は、一定完了している。
- ③ 世界遺産観光の拠点となるビジターセンター等の整備は完了しており、市内構成資産及び他自治体の構成資産の関連性等の世界遺産価値に関する情報や周遊観光に向けた情報の発信は継続して行っている。
- ④ 周年事業を通じて、市民を含め、世界遺産価値の周知啓発、周遊観光の促進が一定図られた。

(2) 課題

- ① **財源確保**：保全整備には多額の事業費を要するため、財源の確保が必要である。
- ② **価値理解**：世界遺産価値に関するストーリーが十分に理解されていない。
- ③ **担い手確保**：構成資産がある地域における保存活用の担い手が不足している。
- ④ **お金が落ちる仕組み**：観光を地域経済の活性化につなげるため、地域にお金が落ちる仕組みが必要である。
- ⑤ **観光拠点来訪者**：世界遺産観光の拠点施設への来訪者数がピーク時と比較して減少している。
- ⑥ **周遊観光**：周遊がまだ十分に図られていない。（10月の調査事項）

5 世界遺産を生かした観光まちづくりの取組の方向性

5-1 「明治日本の産業革命遺産」

5-2 「潜伏キリシタン関連遺産」

5 世界遺産を生かした観光まちづくりの取組の方向性

5-1 「明治日本の産業革命遺産」

- (1) 様々な財源確保策の実施（課題①：財源確保）
- (2) 構成資産保有自治体との連携
 - ・地域ガイド人材の育成（課題②：価値理解、③：担い手確保、⑥：周遊観光）
 - ・周遊観光の促進（課題⑤：観光拠点来訪者、⑥：周遊観光）
- (3) 官民連携の促進
 - ・地域にお金が落ちる仕組みづくり（課題①：財源確保、課題④：お金が落ちる仕組み）
 - ・地域ガイド人材の育成（課題②：価値理解、③：担い手確保）
 - ・周遊観光の促進（課題⑤：観光拠点来訪者、⑥：周遊観光）

5-2 「潜伏キリシタン関連遺産」

- (1) 官民連携の促進
 - ・周遊観光の促進（課題②：価値理解、⑤：観光拠点来訪者、⑥：周遊観光）
 - ・新たな担い手の確保（課題①：財源確保、③：担い手確保）
 - ・地域にお金が落ちる仕組みづくり（課題④：お金が落ちる仕組み）
- (2) DMOとの連携のさらなる充実
 - ・地域にお金が落ちる仕組みづくり（課題④：お金が落ちる仕組み）
 - ・地域ガイド人材の育成（課題②：価値理解、③：担い手確保）
 - ・周遊観光の促進（⑤：観光拠点来訪者、⑥：周遊観光）

5-1 世界遺産を生かした観光まちづくりの取組の方向性 –「明治日本の産業革命遺産」

(1) 様々な財源確保策の実施

課題①：財源確保

ア 端島見学施設使用料

- ・令和8年度から使用料を改定（一般:310円⇒650円、小学校の児童又は中学・高等学校の生徒:150円⇒320円）
- ・使用料収入から端島見学施設運営費を差し引いた収支差額を「端島（軍艦島）整備基金」に積立。端島炭坑整備事業の財源の一部として使用。（令和8年度収支差額見込:9,941万3,000円）
- ・令和7年度末時点基金積立額：18億3,816万7,921円（決算見込額）

イ 企業版ふるさと納税

- ・令和5年度の端島護岸補強工事の開始に合わせ、企業版ふるさと納税を活用する事業として、「端島炭坑（軍艦島）を守る世界遺産保全プロジェクト」を設定。
- ・寄付金を「端島（軍艦島）整備基金」に積立。端島炭坑整備事業の財源の一部として使用。（令和8年度見込:300万円）

ピックアップ事業
対象事業の中から、いくつかピックアップしてお知らせします。
掲載している事業以外にも寄附することができます。

端島炭坑（軍艦島）を守る世界遺産保全プロジェクト

概要

護岸整備工事
護岸総延長 1,150 mの一部の工事
【総事業費】 約 77.5 億円
【事業期間】 令和 3 年度～令和 23 年度

世界文化遺産に登録

江戸時代末期から明治時代のわずかに約 50 年の間に日本が近代化を成し遂げたことを証明する「明治日本の産業革命遺産」が、平成 27 年に世界文化遺産に登録されました。

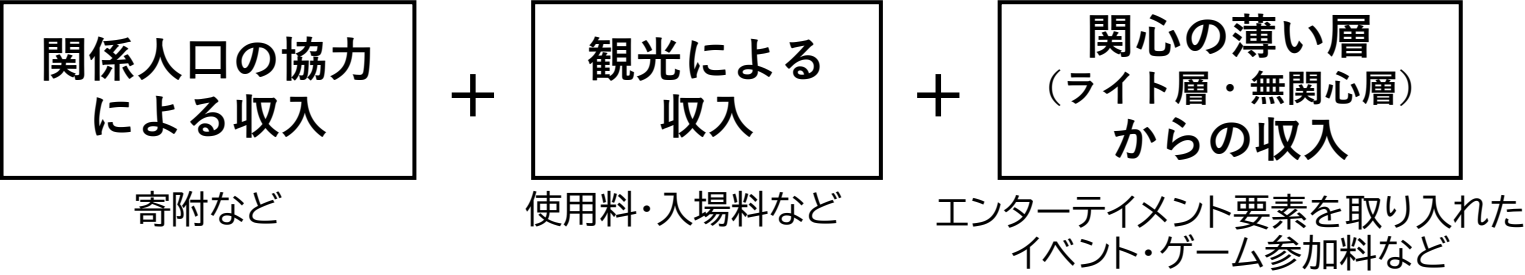
端島炭坑（通称：軍艦島）は、世界遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産の 1 つであり、海底深くに埋蔵する石炭を採炭するためだけに開発された島で、炭坑の閉山に伴い現在は無人島になっています。毎年のように台風の猛威に曝される過酷な環境にあるため、護岸や高層住宅群等の構造物が被災したり、土地が洗掘されたりする危険性があります。世界遺産の構成資産である端島炭坑を後世に引き継ぐため、長崎市は端島炭坑を囲む護岸の補強工事を行っています。



台風の日の端島 撮影：松田 満英

護岸内陸

護岸補強工事の様子



5-1 世界遺産を生かした観光まちづくりの取組の方向性 –「明治日本の産業革命遺産」

ウ オンラインゲーム「フォートナイト」配当金 ～遊べば遊ぶほど、保全につながる～

- ・登録ユーザー数約6.5億人、月間アクティブユーザー数約1億人の世界で利用されているオンラインゲーム。
- ・ゲームは無料でプレイ可能。ただし、ゲーム中のアイテムの購入は有料。
- ・フォートナイト運営者が課金利用分の収益について、各ステージの利用者数の実績に応じて、ステージ所有者に収益の一部が配当される。(月締めで、配当額が100ドルを超えた段階で振込)
- ・配当金を「軍艦島(端島)整備基金」に積立。端島炭坑整備事業の財源の一部として使用。(令和8年度見込:6万円)



2025 グッドデザイン賞 受賞

(2) 構成資産保有自治体との連携

ア 地域ガイド人材の育成

(実施主体:「明治日本の産業革命遺産」世界遺産協議会)

課題②：価値理解	課題③：担い手確保	課題⑥：周遊観光
----------	-----------	----------

事業費内訳
市費(100%)

※市費は一財
【負担割合:県・市1/2ずつの負担とし、
市負担分は11市の均等割り＝長崎市負担 1/22】

- ・構成資産を有する自治体で構成する協議会により、開催地を持ち回りで研修を開催。他地域の構成資産の世界遺産価値も十分に理解することで、自地域でガイドをする際の充実を図り、満足度向上につなげる。

(3) 官民連携の促進

ア T-PROJECT(実施主体:T-Project推進協議会)

- 課題①：財源確保
- 課題②：価値理解
- 課題③：担い手確保
- 課題④：お金が落ちる仕組み
- 課題⑤：観光拠点来訪者
- 課題⑥：周遊観光

- ・令和7年度・8年度 文化庁・全国各地の魅力的な文化財活用推進事業及び文化財多言語解説整備事業に採択
- ・令和8年7月27日 長崎創生プロジェクト事業に認定

●主な事業内容

・ツーリズム事業

野々串港から出港し、高島炭坑跡（高島・中ノ島・端島の3島）の上陸ツアーを企画・開催する。また、ガイドを養成する。

・地域活性化の拠点整備

野母崎地区の空き家等を活用し、端島での生活を再現する展示「軍艦島再現ルーム」を整備し、活動拠点として活用する。
また、高島石炭資料館の館内にデジタルサイネージやVRゴーグルを設置し、安全上の理由から立ち入りできない炭坑遺産を仮想空間を用いて体験可能とする。

・遺産群の保存事業

ツーリズム事業等から得られた収益を活用し、基金に充てる。また、ツアーに参加する方々や地域の人々と「どう残し、どう活かすか」を語り合う。

全国各地の魅力的な文化財活用推進事業

事業費内訳	
国費 (50～65%)	自己負担 (35～50%)

文化財多言語解説整備事業

事業費内訳	
国費 (78%)	自己負担 (22%)

※国費はいずれも文化庁補助金



5-1 世界遺産を生かした観光まちづくりの取組の方向性 –「明治日本の産業革命遺産」

イ 端島×コスモス畑プロジェクト

課題①：財源確保

課題⑤：観光拠点来訪者

課題⑥：周遊観光

令和6年に放送されたテレビドラマ（日曜劇場「海に眠るダイヤモンド」）の最終話において、端島を望むコスモス畑のシーンが描かれた。

劇中のロケ地は他県であったものの、放送を契機に有志によるクラウドファンディング等のプロジェクトが立ち上がった。令和7年秋、「長崎のもぞき恐竜パーク」内（西展望所）にコスモス畑が再現され、地域の新たな観光スポットとなっている。



5-1 世界遺産を生かした観光まちづくりの取組の方向性 –「明治日本の産業革命遺産」

ウ 押し巡り協会の活動

課題③：担い手確保

課題⑤：観光拠点来訪者

課題⑥：周遊観光

アニメやドラマの舞台（聖地）となった南山手・大浦などを、ファンと地域住民が協力して清掃・保全する活動「清地化プロジェクト」を実施し、新しいコミュニティを形成している。

また、東山手・南山手を会場としたカードラリーや南山手レストハウスにおいて、長崎の風景写真展「まちなか押し巡り展」（「まちぶらプロジェクト」認定）を開催。季節ごとに作品を入れ替え、地域の多面的な魅力を発信している。



清地化プロジェクト



まちなか押し巡りカードラリー



まちなか押し巡り展

5-2 世界遺産を生かした観光まちづくりの取組の方向性 –「潜伏キリシタン関連遺産」

(1) 官民連携の促進

ア 外海地区における フィールドミュージアム構想 (事業主体：一般社団法人ISHIZUE)

課題②：価値理解

課題④：お金が落ちる仕組み

課題⑤：観光拠点来訪者

課題⑥：周遊観光

「石積みネリベイ建物」の民間所有者は、外海地区におけるド・ロ神父と地域の人々が残した歴史的遺産を歩いて巡るとともに、神父の精神を受け継ぐシスターたちの暮らしの一部を体験することを通して、ド・ロ神父の歩みを振り返り、その精神を感じることができるフィールドミュージアムをつくる構想を掲げている。

世界遺産の構成資産及び緩衝地帯の範囲は、国選定重要文化的景観「長崎市外海の石積集落景観」となっており、文化庁・県・市の予算を財源とする長崎市重要文化的景観保存活用事業費補助金を活用し、外海地区内の周遊を促進するための整備事業を行っている。

また、補助対象外の事業者独自の取組として宿泊施設の整備も行われており、外海地区内の周遊促進、滞在時間の延長等による地域の活性化が期待される。



フィールドミュージアムの全体像
(民間事業主体(案)に一部加筆)

5-2 世界遺産を生かした観光まちづくりの取組の方向性 –「潜伏キリシタン関連遺産」

●長崎市重要文化的景観保存活用事業費補助金の活用事例

事業費内訳				
市補助 (82.5%)	(国・県補助を含む間接補助)			所有者負担 (17.5%)
	国費(65%)	県費(14%)	市費(21%)	

・大平作業場跡 活用施設整備事業(平成30～令和5年度)

※国費は文化庁補助金（重要文化的景観）
市費は過疎債（充当率100%）

整備前

整備後



【整備後の活用の様子】ワークショップの開催等



【今後の事業計画】

- ・石積みネリバイ建物ガイダンス施設整備事業
(令和8～10年度(予定))

補助金を活用して、石積みネリバイ建物を重要文化的景観のガイダンス施設として整備するもの



整備後の外観イメージ(南東面)

5-2 世界遺産を生かした観光まちづくりの取組の方向性 –「潜伏キリシタン関連遺産」

イ 石積集落景観の保全・技術の継承に向けたワークショップ（実施主体：外海から会）

- 課題①：財源確保
- 課題②：価値理解
- 課題③：担い手確保
- 課題④：お金が落ちる仕組み

事業費内訳
市費(100%)
県費(100%)

※自己負担なし（上限50万円）
県費は基金を財源とした補助金

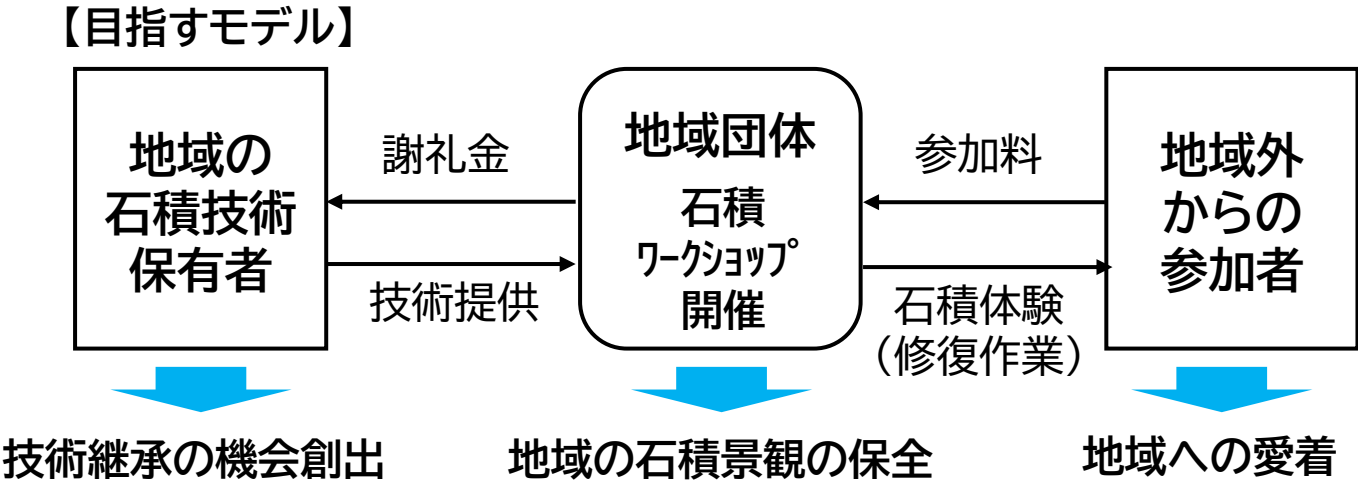
- 世界遺産の構成資産及び緩衝地帯の範囲は、国選定重要文化的景観「長崎市外海の石積集落景観」として保護されているが、重要な構成要素となっているくらしに根付いた石積構造物（段畑の石垣等）について、所有者の転居による管理不足やイノシシ被害などにより崩落してしまっても、所有者が費用を負担して修復することが困難になっている。
- そこで、地域外（市内の他地域を含む）の力（労力又は資金）を得て、石積景観を保全継承しようとする取組。
- 長崎市世界遺産保全活動事業費補助金を活用して、令和7年度から活動を開始し、ワークショップを実施。令和8年度も10月にワークショップを実施予定。
- 参加者が参加料を払って、保全整備に参加する仕組みの構築に向けて、現在は補助金を活用して取り組む。



修復前の石垣



ワークショップの様子



5-2 世界遺産を生かした観光まちづくりの取組の方向性 –「潜伏キリシタン関連遺産」

(2) DMOとの連携のさらなる充実

課題②：価値理解

課題④：お金が落ちる仕組み

ア 高付加価値コンテンツ

課題⑤：観光拠点来訪者

課題⑥：周遊観光

外海地区では、世界遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産である出津集落を中心に、潜伏キリシタンの歴史や信仰、暮らしを体感できる高付加価値コンテンツを展開。

出津農楽舎でのかんころ餅づくり体験や、旧出津救助院におけるド・ロ神父の足跡をたどるガイドツアー、枯松神社・祈りの岩での祈りの文化の学習、遠藤周作文学館での瞑想体験など、地域住民や専門ガイドとの交流を通じて、単なる見学にとどまらない深い学びと体験を提供。



かんころ餅づくり体験



ド・ロさまと歩くミュージアム



日本に3つしかないキリスト教の
神父を祀る神社

5-2 世界遺産を生かした観光まちづくりの取組の方向性 –「潜伏キリシタン関連遺産」

イ ガイド育成研修

課題②：価値理解

課題③：担い手確保

課題④：お金が落ちる仕組み

世界遺産の価値や歴史的背景を国内外の観光客に分かりやすく伝え、その魅力をより深く体感していただくため、ガイド人材の育成に取り組んでいる。

特にインバウンド対応として、有償英語ガイド「Nagasaki Crew」を育成し、長崎の歴史・文化・地理に関する知識習得や実地研修を実施することで、世界遺産の背景にあるストーリーや地域の暮らしまで伝えられる受入体制の強化を図っている。



大型バスを使った団体ツアー研修



1期生のフォローアップ研修